

新しい肝炎総合対策について

厚生労働省健康局
肝炎対策推進室

肝炎対策の推進（平成20年度）

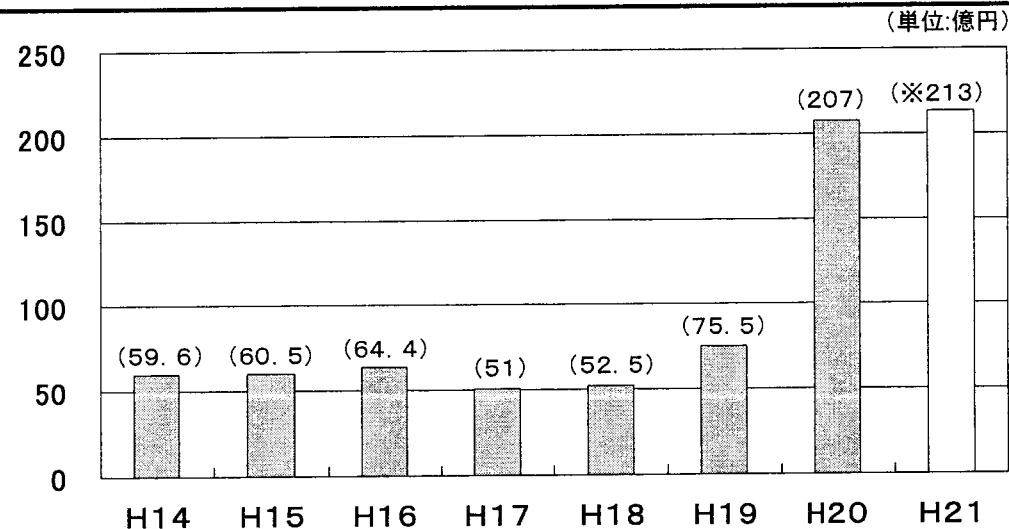
【肝炎対策関連予算（厚生労働省分）】

207億円（19年度 75億円）

【施策の方向性】

- 肝がんへの進行予防、肝炎治療の効果的促進（経済的負担軽減）
- 検査・治療・普及・研究をより一層総合的に推進
- 検査未受診者の解消、肝炎医療の均てん化、正しい知識の普及啓発等

＜肝炎対策予算の推移＞
（平成14年度～平成21年度）



※ H21は概算要求額を記載。

1. インターフェロン療法の促進のための環境整備 129億円

- インターフェロン治療に関する医療費の助成の創設

2. 肝炎ウイルス検査の促進 51億円

- 保健所における肝炎ウイルス検査の受診勧奨と検査体制の整備
 - ・検査未受診者の解消を図るため、医療機関委託など利便性に配慮した検査体制を整備。
- 市町村及び保険者等における肝炎ウイルス検査等の実施

3. 健康管理の推進と安全・安心の肝炎治療の推進、 肝硬変・肝がん患者への対応 7.5億円

- 診療体制の整備の拡充
- 肝硬変・肝がん患者に対する心身両面のケア、医師に対する研修の実施

4. 国民に対する正しい知識の普及と理解 3.5億円

- 教育、職場、地域あらゆる方面への正しい知識の普及

5. 研究の推進 16億円

- 肝疾患の新たな治療方法の研究開発
- 肝疾患の治療等に関する開発・薬事承認・保険適用等の推進

1. インターフェロン療法の促進のための環境整備

インターフェロン治療の医療費助成

～与党肝炎対策に関するプロジェクトチーム～

国内最大の感染症であるB型・C型ウイルス性肝炎については、インターフェロン治療が奏効すれば肝硬変、肝がんといったより重篤な疾病を予防することが可能である。

しかし、当該治療に係る医療費が高額であるため、早期治療の妨げになっていることにかんがみ、インターフェロン治療への医療費助成を行うものとする。

実施主体	都道府県
対象者	B型及びC型肝炎の患者
対象医療	B型及びC型肝炎の根治を目的としたインターフェロン治療
自己負担	上位所得層(20%) 5万円 中間所得層(30%) 3万円 上記以外の所得層(50%) 1万円
財源負担	国:地方=1:1
対象人数	1年間に10万人
実施期間	7年間(平成20年度～平成26年度)
総事業費	年間256億円(7年間で1800億円)

2. 肝炎ウイルス検査の促進

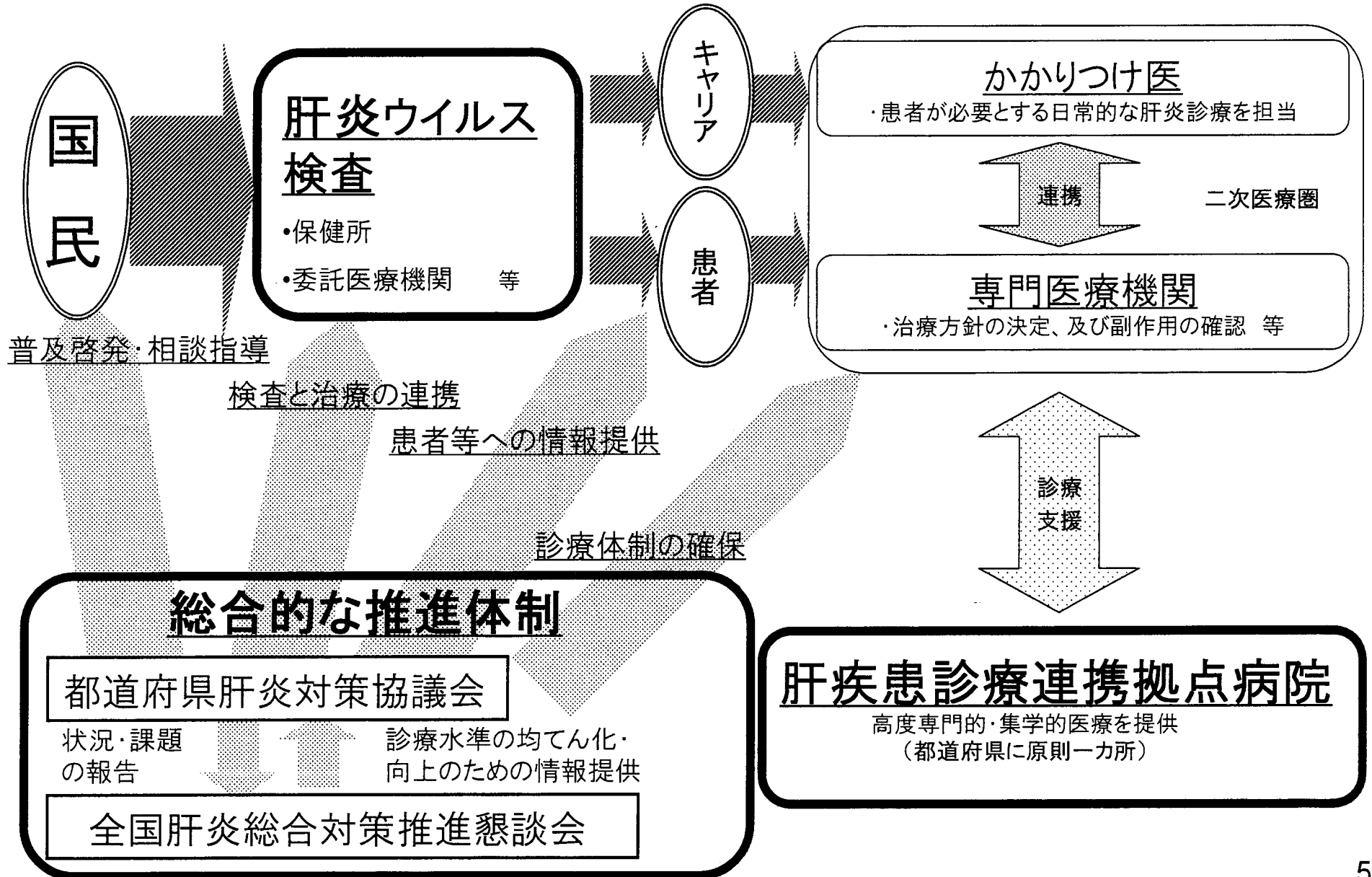
肝炎ウイルス検査の無料化の拡大

保健所における肝炎ウイルス検査(特定感染症検査事業)

- | | |
|------------|-------------------------------|
| ・平成14～18年度 | 保健所のみ |
| ・平成19年度から | 医療機関委託も可能 |
| ・平成20年1月から | 委託医療機関での検査も
無料化が可能となるように措置 |

3. 健康管理の推進と安全・安心の肝炎治療の推進、肝硬変・肝がん患者への対応

診療体制の整備



肝疾患診療に関する医療機関に求められる役割

【専門医療機関】(2次医療圏に1カ所以上)

- ① 専門的な知識を持つ医師による診断と治療方針の決定
- ② インターフェロンなどの抗ウイルス療法
- ③ 肝がんの高危険群の同定と早期診断

【肝疾患診療連携拠点病院】(都道府県に1カ所)

- ① 肝疾患に係る一般的な医療情報の提供
- ② 都道府県内の医療機関等に関する情報の収集や提供
- ③ 医療従事者や地域住民と対象とした研修会や講演会の開催や肝疾患に関する情報支援
- ④ 肝疾患に関する専門医療機関と協議の場の設定

4. 国民に対する正しい知識の普及と理解

◎教育、職場、地域あらゆる方面への正しい知識の普及

肝炎に関する正しい知識を国民各層に知っていただき、肝炎ウイルスの感染予防に資するとともに、患者・感染者の方々がいわれのない差別を受けることのないよう、普及啓発に努めている。

<厚生労働省における主な取組>

○リーフレット等の配布

- ・「肝炎ウイルス検査のお知らせ」
- ・「ウイルス性肝炎の治療に関するお知らせ」
→ 都道府県、医師会等へ配布
- ・「事業主の皆さまへのお知らせ」
→ 事業者団体、関係団体へ配布
- ・「ウイルス性肝炎について(一般向け)」
- ・「肝炎ウイルスキャリア診療の手引き(医療機関向け)」
→ 全国C型肝炎診療懇談会において取りまとめられ、都道府県等へ配布

○ホームページによる情報発信

- ・ 最新情報、肝炎に関する各種資料、肝炎に関するリンク集 等

○自治体の普及啓発活動に対する補助事業

- ・ シンポジウム開催、ポスター作成、新聞・中吊り広告 等

5. 研究の推進

肝炎研究7カ年戦略(平成20年6月とりまとめ)

肝炎等の研究成果

- ・B型肝炎:
インターフェロン治療
逆転写酵素阻害薬治療
- ・C型肝炎:
インターフェロン治療
ペグインターフェロンとリバビリン併用療法
- ・肝硬変:
代償性肝硬変のインターフェロン治療
- ・肝がん:
ラジオ波焼灼、抗がん剤、手術、
等の治療法
- ・基礎:
肝炎ウイルス感染細胞、キメラ
マウスなど確立
- ・疫学:
肝炎患者の推計の基、母子感染
予防、等

新規重点課題

- ・B型肝炎:
逆転写酵素阻害剤に対する耐性ウイルスの機序解明
新規逆転写酵素阻害剤等の治療薬開発
- ・C型肝炎:
次世代的なインターフェロン治療法開発による根治率の改善
インターフェロン副作用の少ない治療法・治療薬開発
- ・肝硬変:
肝臓の線維化機序の解明から治療法開発
ヒトIPS細胞等の再生医療を利用した根治治療の開発
- ・肝がん:
診断マーカーや最新の画像機器を用いた超早期発見
技術の開発
新規抗がん剤の開発、集学的治療等新規治療法の開発
- ・基礎:
肝炎ウイルス感染後の病態進行過程の解明
肝炎ウイルスの薬剤耐性変異にかかわる過程の解明
肝炎ウイルスによる発がん機構の解明
- ・疫学:
全国規模の肝炎感染者の実態解明
検診・予防・医療体制等の評価

戦略目標

今後7年間で、

- ・B型肝炎
の臨床的治癒率、
約30%→40%、
- ・C型肝炎
(1b高ウイルス型)
の根治率
約50%→70%
- ・非代償性肝硬変
(Child-Pugh C)
における5年生存率
約25%→50%(B型)、
約25%→35%(C型)
- ・進行肝がん
の5年生存率
約25%→40%
を目指す。